

今年2月から来年5月末まで 開館50周年記念事業を実施

国立西洋美術館館長 青柳正規氏

ルーヴル美術館展やフランク・ブルーグイン展などを開催

本誌 国立西洋美術館は川崎造船所社長であった故松方幸次郎氏が第一次世界大戦時にヨーロッパ各地で収集した印象派の絵画やロダンの彫刻など、いわゆる松方コレクションを基礎に設立された西洋美術の専門美術館ですね。

青柳 当館はフランス政府から寄贈、返還された松方コレクションを公開する施設として設置され、一九五九年六月一日に東京・台東区の上野公園に開館。西洋美術全般を対象とする唯一の国立美術館として展覧事業を中心に西洋美術に関する作品や資料の収集、調査研究、修復保存などを行っています。このうち展覧事業は本館と新館でセザンヌやクールベ、ゴッホ、ミレー、モネ、ゴッホなど松方コレクションの作品や創立以来毎年購入しているルネサンス以降二〇世紀初頭までの作品などを常設展として年間を通して開催しています。また、企画展示館では当館の自主的な特別展を年一回、さらに新聞社などの共催展を年二回程度開催、西洋美術の紹介に力を注

いでいます。なお、当館は二〇〇一年四月に発足した独立行政法人国立美術館が設置する美術館の一つになっており、現在、同法人は当館のほか、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立国際美術館、国立新美術館で構成され、私が理事長を務めています。

本館は世界遺産候補に推薦された歴史的建造物

本誌 今年が開館五〇周年を記念してルーヴル美術館展など五〇周年記念事業を行っていますね。

青柳 開館五〇周年記念事業として今年二月二十八日から六月一日開催の「ルーヴル美術館展—一七世紀ヨーロッパ絵画—」を皮切りに六月四日から八月三〇日開催の「ル・コルビュジエと国立西洋美術館」や七月七日から八月一日の「かたちは、うつる—国立西洋美術館所蔵版画展—」さらに九月一日から十一月三日の「古代ローマ帝国の遺産—栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ—」と「ローマ 未来の原風景 b y H

ASHI」、そして二〇一〇年二月二三日から五月三〇日開催の「フランク・ブルーグイン展」と「所蔵水彩素描展」など来年五月末までさまざまな展覧会やイベントを開催します。また、六月一日には記念祝賀会も行いました。

本誌 西洋美術館の本館は重要文化財にも指定されている歴史的建造物で、世界遺産候補としてユネスコに推薦されましたね。

青柳 当館本館は二〇世紀を代表するフランス人建築家、ル・コルビュジエ氏の設計により同氏に師事した坂倉順三、前川國男、吉阪隆正の三氏の建築家が現場監理を担当して完成させています。現在、フランス政府とル・コルビュジエ財団が中心となって、世界に存在するル・コルビュジエ氏の設計した建築物の代表的な作品をまとめてユネスコの世界遺産として登録する計画を進めており、当館の本館も世界遺産に推薦されています。この七月には世界遺産登録の可否が決定する予定ですが、道のりは厳しいと思っています。



(編集部注・今年六月二七日にユネスコの世界遺産委員会は国立西洋美術館など六カ国、二二カ所の建築群「ル・コルビュジェの建築と都市計画」について、今回は登録を見送り、追加情報を求める情報照会とすることを決めている)

中高年を中心に人気の高まる国内外の美術館

本誌 最近、中高年を中心に美術への関心が高まり、国内外の美術館が注目を集めています。

青柳 フランス・パリのルーヴル美術館をはじめ、米ニューヨークのメトロポリタン美術館や英ロンドンのナショナル・ギャラリーなど欧米の美術館の人気は高く、海外旅行でこうした美術館を訪れる日本人は増えています。また、国内でも当館で昨年九月に開催した「ヴィルヘルム・ハンマースホイ 静かなる詩情」展には二〇万人が来館しています。ハンマースホイはデンマークを代表する画家の一人ですが、没後、忘れ去られており、同展に二〇万人ちかく

も集まったことは日本の美術に対する関心の高さを示しています。世界的に見ても日本の美術に対する関心は高く、こうした多くの来館者により美術館の運営が支えられています。当館などは独立行政法人に移行してから毎年四割づつ運営予算が削減されているうえ、昨年後半の経済危機から新聞社やテレビ局などからの協賛も減少しており、今後さらに魅力ある展覧会を開催し、来館者の増加を図りたいと考えています。とくに小学生や中学生などがいつまでも思いたいと思っています。また、東京国立近代美術館の工芸館には数多くの優れた日本の伝統工芸品が所蔵されているので、これを毎年、海外で展示したいとも考えています。

本誌 ギリシア・ローマ考古学者でもある館長は危機的な状況でしか天才政治家は誕生しないと述べていますが。

青柳 政治に興味はありませんが、歴史的に見て国境問題、民族問題、宗教問題があるところでしか傑出した政治家は生まれていません。解決不可能な環境の中で政治家は育つもので、日本の場合はそういう問題が

ほとんどありませんので、天才的な政治家の誕生は難しいと考えています。また、米国のような競争社会を日本に持ってきてうまくいかないと思っています。米国の場合はあるクラスで敗者になっても次のクラスで勝者になれる社会構築ができています。しかし、そうした社会が構築されていない今の日本では敗者は単なる敗者になってしまいます。

青柳正規(あおやぎ・まさのり)氏
 1944年、大連生まれ。1967年、東京大学文学部美術史学科卒業。1969年、同大学院修士課程修了。1969～1972年、ローマ大学に留学、古代ローマ美術史・考古学を学ぶ。1972年、東京大学文学部助手。1985～2005年、同助教授、同教授、同大学院人文社会系研究科長、同文学部長、同副学長。2005年、独立行政法人国立美術館理事長、国立西洋美術館長に就任。2006年、紫綬褒章受章、日本学士院会員。著書に「皇帝たちの都ローマ」「トリマルキオの饗宴」「ポンペイの遺産」など。文学博士。